

KSPN-JSPN joint meeting に参加して

奈良県立医科大学脳神経外科 朴 永銖

日本小児神経外科学会会員の皆様。

今回、韓国小児神経外科学会(KSPN)との、joint meeting に参加して参りましたので、短く報告させていただきます。

私は、学会の渉外委員を務めている関係もあり、晋州(Jinju)で開催された KSPN への参加は責務と考え、日本から総勢 10 人のメンバーとともに初めて参加いたしました。

韓国といえば、皆様方はソウルやプサンを直ぐに思い浮かべられますが、今回の開催地は晋州でかなりの地方都市での開催です。ソウルであれば、各自が勝手に現地に集合するのは容易いことですが、今回は英語もほとんど通じない地方都市での開催で、参加メンバーの皆が心配しておりました。

事前に何度も先方の先生との連絡のやり取りの労を取っていただいた山崎麻美先生と KSPN 実行委員の行き届いたご配慮で、さまようことなく無事現地に到着出来たことを、何よりも先ず御礼を申し上げたく存じます。

KSPN の先生方の発表を拝聴していて、非常に強く印象に残ったことが二点あります。センター化されて、各々の中核病院での症例数が日本の各施設比して、圧倒的に多いことは以前より承知していたので驚きませんでした。何よりも先ず、ソウル大学の先生方を中心に、基礎研究が活発に行われていることに驚かされました。

私が 2006 年の夏に、短期間ソウル大学こども病院に留学しておりましたが、当時から Kim SK 先生をリーダーとして、忙しい臨床の傍ら、積極的に基礎研究をされておりました。それが継続的に行われ、モヤモヤ病や小児脳腫瘍に関しての基礎研究で素晴らしい成果が出ております。私は全く基礎研究をした事が無いのでその凄さが解りませんが、埜中先生(国立大阪医療センター)にお聞きすると、日本では初期臨床研修医システムの導入が、臨床における“医者不足”をもたらし、各大学での研究に大きな支障を来してしまったので、とのことでした。

もう一点は、韓国では小児脳腫瘍学会(KSPNO)が設立され、全国的に同一のプロトコールで adjuvant therapy が行われているとのこと。欧米のデータをもとに、韓国の事情に合致した形にプロトコールを modify し、しかも当然のことですが、脳神経外科医のみが関与するのではなく、小児腫瘍科医、放射線治療医、神経病理医の合同でプロトコールが検討さ

れ、全国統一プロトールが作成され、また臨床成績結果をもとに改訂もされておりました。
Medulloblastomaをはじめとして、germ cell tumor、malignant glioma など、ほぼ全ての脳腫瘍を対象にプロトールが設定されております。この仕事に関しては、Ra HS 先生 (Asan Medical Center) の功績が非常に大きいとの事です。

日本から参加の先生方も、それぞれがご自身の得意分野でご発表をされ、活発に意見交換がなされました。秘かに狙っていた、Best Presentation 賞は師田先生が受賞され、発表内容も素晴らしいことは勿論のこと、流暢な英語が群を抜いておりました。

現地の名産である、ウナギや新鮮な海産物、そして定番の焼き肉なども堪能し、誠に充実した joint meeting でした。

最後に。朝鮮王朝の新しい大王と王妃の誕生です。さて、どなたでしょうか。

(2013年5月29日)

